

中国文芸研究会 2014 年度総会議案書

中国文芸研究会は、研究誌『野草』を年二回、『中国文芸研究会会報』（以下『会報』と略）を年十一回刊行し、例会を年十回開催している。さらに夏期合宿を企画し、有志による「映画の会」や「書評の会」も運営されている。科研とリンクした研究会は北京のシンポジウムをもって大団円を迎えたが、新たな企画の立ち上げなどもあり、今後も活発な研究活動が維持、展開されてゆくであろう。近年の研究会の活動は、従前と較べても決して遜色ない活動状況にあると言えるであろう。

一方、常態化するマンパワーの不足は、にわかには改善する見込みはない。会員数は一時期右肩上がりだったが、近年では、ほぼ横ばい状態が続いている。また、会員も年々忙しくなる一方で、様々な分野で研究業績が数値化され、目に見える成果が求められるようになった。

こうした状況のもと、学会組織とは異なる民間の研究団体が、会費と純粋な意欲だけに支えられて活動を維持してゆくには、これまで以上に実質的な事務局体制の整備と、学会や研究機関の活動とは一定程度差別化された、独自の研究活動の提案が求められるだろう。本研究会は、目先の業績主義に縛られず、のびやかに研究をひろげ、相互交流を深めながら、じっくりと息の長い、着実な研究活動を続けることのできる場でありたいと願う。

こうした研究活動を支える経済的基礎である会費は、管理の宜しきを得て会員から滞りなく納入されている。

また、実際の研究活動については、以下に記すように、各セクションにおいて工夫がこらされ、活性化がはかられている。年十回の例会が、毎回 20 名程度の参加者を確保できていることもそのあらわれであろう。こうした活動を『野草』や『会報』の紙面に極力反映させ、課題を広く会員と共有し、今年も積極的に研究会の運営に努めてゆきたい。

I. 2013 年度活動報告

- *会員数は 248 名（2014 年 4 月現在）。前年度より僅かながら増加に転じた。
- *運営面では、事務局の役割分担がほぼ定着し、円滑な研究会活動が行われた。今後とも事務局体制を維持・更新してゆく人材の確保・育成が重要である。
- *以下、各セクションごとに活動状況を報告する。

（1）『野草』刊行（担当：中野徹・城山拓也）

- *第 92 号（2013 年 8 月 1 日刊行／編集担当：中野徹／版下担当：中野徹）および第 93 号（2014 年 2 月 1 日刊行／編集担当：城山拓也／版下担当：平坂仁志）を予定通り刊行することができた。
- *第 92・93 号についても、これまで通り例会・合宿で報告・討論の後に『野草』に投稿という基本方向は継続されたが、報告に基づく論考以外の投稿も少なくなかった。

*第92号は太田進先生ご逝去にともない、会報第376・377号合併号の「太田進先生を偲んで」（三須祐介編集、2013年3月発行）と連動し、「追悼：太田進先生をしのんで」という特集を組み、追悼文を掲載した。

*第93号は『会報』や8月夏合宿との連動という試みを行い、その一環として「小特集：ビジュアルイメージを読む」を組んだ。

*昨年度の総会議案の記述通り、『野草』編集に関わる中長期的な計画に基づき編集担当者が決められ、編集・刊行が順次進められた。

*「『野草』編集の手引き」の改訂や『野草』の投稿規定の整備は今後の課題である。

(2)『会報』発行（担当：永井・三須）

*前年に引き続き2013年度も、永井英美をリーダー、三須祐介をサブリーダーとして活動し、2013年4月号（378号）3月末原稿〆切・4月上旬編集作業・4月末発送＝島由子、5月号（379号）豊田周子、6月号（380号）永井英美、7月号（381号）阿部沙織、8月号（382号）（合宿会場で発送）中野徹、9月号（383号）羽田朝子、10月号（384号）田村容子、11月号（385号）和田知久、12月号（386号）小笠原淳、2014年1月号（387号）津守陽、2月3月合併号（388+389号）大野陽介がそれぞれ編集を担当した。

*各月とも期日どおり順調に出すことができた。

*印刷費の関係もあって設定された「ひと月あたり12頁を限度とする」という原則は守られた。

*編集担当者がPDFを作成しメールマガジン版を配信した。

*遠方等の事情でやむを得ない場合をのぞき、会報担当者が会報発送にも立ち会い、執筆者分の送付などに気を配り、編集から発送までの過程の責任をもつという形で担当号に対する責任を果たした。

*「交流」欄の編集については、事務局員が情報を随時事務局MLに挙げ、それが主な情報源となった。

*「例会記録」は、基本的に報告者によるレポートを掲載した。

*『会報』メールマガジン版登録者は、現在のべ107人である。

*会報印刷費はあらかじめ会計係りからリーダーが予算を預かり、木村桂文社からの請求に応じてその都度支払った。

*13年度は、夏合宿と関連した特集を連載で掲載するという、新しい試みも行った。

*例会のない2月発行の会報を3月号との合併号とし、24頁以内で小特集を組んだ。大野が編集を担当し、6名のご寄稿をいただき、充実した紙面作りができた。

*合併号の担当者の決定、会報作成上の問題点、今後の会報担当者の活動、翌年度の総会議案書の作成などについての相談のために、1月例会日の午前中に「会報担当者懇談会」を行った。本議案書の「活動報告」「活動方針」は、その内容をもとに作成している。

(3)「例会」開催（担当：濱田）

今年度は欠会もなく、予定通り 10 回の例会を行うことができた。

通常の研究報告のほかに、4 月例会では中国芸能研究家の吉川良和氏に「中国非文字文化としての芸能研究」という講演をお願いした。また、9 月例会、3 月例会ではそれぞれ『野草』92 号、93 号の合評会を行い、12 月例会では伊藤徳也編『周作人と日中文化』をとりあげ、編者及び執筆者の一部にも参加していただき書評を行った。例会の参加者人数は平均して 20 人余り。『野草』編集担当の城山さんと田村さんが積極的に報告者を集めてきてくれたこともあり、比較的早い時期に例会内容を決めることができた。「例会報告→『野草』掲載→例会での合評」という流れもほぼ保たれていたように思う。

(4) 「夏期合宿」 (担当：大東)

*夏期合宿 (担当：大東和重・城山拓也) は、8 月 26 日～28 日の 3 日間にわたり、札幌市の北海道大学にて、「北海道大学中国語中国文学談話会」との共催で開かれた。参加者は 41 名 (うち宿泊 22 名、日帰り参加 19 名)。2013 年度の特集は「ビジュアルイメージを読む」で、アニメ「黒猫警長」、上海京劇、乳房の図像学などが展開され、また沈從文、満洲国の文学、探偵小説についての自由発表があり、密度の高いプログラムであった。北大中文談話会との共催のため、北海道在住の研究者と親しく交流できたことも大きな収穫で、充実した 3 日間となった。

(5) 「書評の会」 (担当：松浦)

*松浦恆雄 (責任者)・今泉秀人が中心となって、4 月・6 月・10 月の例会前の午前中に開催した。4 月は、新刊にこだわらず、講演者の著書とリンクさせて行い、10 月には、12 月の全体書評の候補作を推薦した。毎回担当者が報告したあと、出席者による意見交換を行い、新刊書・論文などの情報交換もフリートークで行った。参加者は多くなかったが、最新の研究成果に触れる効果は十分にあった。

*6 月と 10 月の書評の会の内容は『会報』に掲載した。

(6) 「映画の会」 (担当：菅原)

*昨年度開催した映画の会協賛の研究例会の成果を、『越境の映画史』(堀潤之・菅原慶乃編著、関西大学出版部、2014 年 3 月)として出版した。文芸研映画の会からは 3 名が寄稿した。

*映画の会のメーリングリストによる情報交換も継続されたが、それとは別に Facebook 等 SNS による個別の交流も盛んに行われた。コミュニケーションのツールが多様化しつつある中、効果的に情報を収集し、共有していく方法を引き続き模索したい。

(7) 40 年代文学“漂泊”研究会 (担当：濱田)

*基盤研究 (B)「漂泊する叙事 1940 年代中華圏における文化接触史」、最終年度の 2013 年度には、まず 8 月 3 日から二日間、名古屋にて「分裂の物語・分裂する物語」と題したシンポジウムを行った。文芸研からも多くのメンバーが参加したほか、黄英哲さんの尽力によって各地から多くの優れた研究者に参加していただき、成功裡に終えることができた。

また 2014 年 1 月 11 日からの三日間、北京大学にて北京大学中文系主催、中国文芸研究

会および中国社会科学院の共催でシンポジウム「聚散離合的文學時代 1937-1952」及び若手中心のワークショップ「新生代二十世紀中国文学研究」を実行、こちらでも四〇年代を中心テーマにして意義ある交流を行うことができた。

(8) 「特別事業」計画 (担当：宇野木)

* 「特別事業」の今後の展開に向け、過去における事業の清算作業に取り組みつつある。
* 新規事業計画に関しては、「特別事業」のあり方をめぐる議論を開始した段階に留まった。

(9) 「野草ネットワーク」(担当：青野)

* レンタルサーバーによる研究会のネットワーク運営が定着した。

URL=<http://c-bungei.jp/bungei.shtml>

E-mail=office[アットマーク]c-bungei.jp

* ウェブサイトは、菅原慶乃が中心となって管理・更新作業を行ない、充実した内容となっているが、ウェブサイトの重要性に比例して、担当者の負担が重くなってきている。

* 事務局アドレス office[アットマーク]c-bungei.jp 宛のメールを事務局 ML に転送する作業は、2011 年度より菅原・鳥谷の複数担当制へと移行した。これにより、転送処理の相互チェックがはたらか、転送ミスや対応漏れ等を防ぐことが可能となった。

* 「野草 ML」(登録数のべ 85 件)は会員交流の場として、「事務局 ML」(登録数のべ 62 件)は運営に関わる意見交換や実務作業効率化の手段として重要な役割を果たしてきた。

「野草 ML」は依然あまり活発ではないが、気軽な情報交換の場として、一定の活用がなされた。一部のメールアドレスにメールが配信されないトラブルは、若干改善された。

* 『会報』メールマガジン(登録のべ 107 件)は、会員数に比して依然登録数が少ない。さらに登録を呼びかけることと、アーカイブ化の検討とが必要であると思われる。

* 「交流データベース」を設置したが、『会報』の交流欄との連携がうまくいっていない。工夫が必要である。

II. 2014 年度活動方針

* 事務局体制をしっかり安定させ、研究活動の維持・向上に努める。

* そのため、(1) 組織の維持管理を受け持つ会費管理・口座管理・事務局 ML、(2) 研究活動の発表や広報を受け持つ例会・会場予約・二次会予約・夏合宿・『野草』・『会報』・ウェブサイト、(3) 新しい研究活動の企画を受け持つ「書評の会」・「映画の会」・特別事業の三本柱ががっちり組み上がり、本研究会が十分に力を発揮できるよう、事務局・各セッションの役割分担を確認し、相互の連携を強めてゆきたい。

* 大学院生を中心とする若手層および関西在住以外の会員にも、主体的、積極的な参加と役割分担を呼びかけるとともに、広く会員からの積極的な提言や取り組みを歓迎したい。

* 研究活動の活性化には、例会報告や『野草』掲載論文などにおける研究水準の向上が不可欠であるが、そのためにも、これまで以上に多様な方法が試みられて良いだろう。以下、

各セッションごとの活動方針を記す。

1 各種研究活動について

(1) 『野草』刊行（文責：松浦）

* 『野草』の刊行は、研究会の中心事業である。刊行の継続と論文の質的向上は、恒常的課題である。そのため、「例会報告→『野草』掲載→例会の合評会」という基本原則を守り、それぞれに充実させることを研究会活動の骨子とする。

* 編集担当者は、従来通り、執筆予定者との連絡を十分にとるだけでなく、独自の企画を立てる場合は、特に例会担当者との連携を密にする必要がある。

* 編集担当者は「『野草』編集の手引き」を活用し、締切りを厳守することにより、投稿原稿の審査（査読）や版下作成を含む全ての編集作業が円滑に進むように努める。

* 「『野草』編集の手引き」は、現状を踏まえて改訂する必要がある。

* 今年度も『野草』編集に関わる中・長期的な計画に基づき、編集担当者を決め、十分な余裕を持って編集作業が行えるよう努めなければならない。

* 今後の刊行計画は以下の通りである。

・第94号＝2014年3月末原稿提出〆切、2014年8月1日刊行。編集：田村容子〔サポート藤野真子〕

・第95号＝2014年9月末原稿提出〆切、2015年2月1日刊行。編集：小笠原淳〔サポート濱田麻矢〕

・第96号＝2015年3月末原稿提出〆切、2015年8月1日刊行。編集：大野陽介〔サポート三須祐介〕

・第97号＝2015年9月末原稿提出〆切、2016年2月1日刊行。編集：津守陽〔サポート田村容子〕

・第98号＝2016年3月末原稿提出〆切、2016年8月1日刊行。編集：鳥谷まゆみ〔サポート宇野木洋〕

・第99号＝2016年9月末原稿提出〆切、2017年2月1日刊行。編集：阿部沙織〔サポート阿部範之〕

・第100号＝2017年3月末原稿提出〆切、2017年8月1日刊行。編集：未定

* 『野草』の書店への卸作業、海外送付先への発送作業は好並晶、バックナンバーの管理は藤野真子の担当とする。

(2) 『会報』発行（担当：永井・三須）

* 編集担当体制は、昨年同様、永井英美をリーダー、三須祐介をサブリーダーとする。

* 昨年度同様、紙媒体版とメールマガジン版の2本立てで発行し、例会の前に発送作業を行う。

* 「例会」開催日程との関係から、昨年度までは2月号は3月末に2月号・3月号合併号として発送したが、今年度は（総会で承認を得られれば）399期（2015年1月）400期・401期（同年2月3月）をまとめて400期記念号として発行する。募集

する原稿の締め切りは2014年12月末とし、2015年2月に版下作成（担当：田村）、校正（会報担当者が手分けする）を行う。

- * 400期記念号は、木村桂文社とも相談の上、3月上旬～中旬くらいに入稿、3月末の例会で発送する。編集担当は三須、中野、永井。
- * 通常号の誌面は原則として12頁までとする。原稿の依頼・採否等は各月編集者の裁量で行なうが、各月編集者が必要と考えた場合は、リーダー・サブリーダーに相談し、最終的には事務局の判断に委ねることもできる。
- * 1月例会の午前中に「会報担当者懇談会」をもち、会報担当者が集まって、編集上の問題点、次年度の合併号の担当者、総会議案書の検討、今後の会報のあり方などについて、アイデアや意見を出し合う。その席での決定はその日午後の1月例会で報告し、事務局全体にメーリングリストで報告するとともに、その決定内容をもとに次年度の総会議案書「会報」の「活動報告」「活動方針」を書く。
- * 会報印刷費はあらかじめサブリーダー（三須）にあずけ、年度末に会計との間で清算をおこなう。
- * 編集担当は、基本的に担当者の希望に基づいて以下のようにする。
2014年4月号（390号）3月末原稿〆切・4月上旬編集作業・4月末発送＝上原、5月号（391号）＝河本、6月号（392号）＝島、7月号（393号）＝阿部、8月号（394号）＝永井、9月号（395号）＝河本、10月号（396号）＝豊田、11月号（397号）＝津守、12月号（398号）＝小笠原、2015年1・2・3月号＝400期記念号＝三須・中野・田村・永井、4月号（402号）＝上原、5月号（403号）＝羽田、6月号（404号）＝和田、7月号（405号）＝南
- * 担当者は原則として編集から発送までの責任を負うこととし、担当月の会報を発送するときには立会い、執筆者分の封入、残部処理の確認などを行う。（急用など、または遠方のため立ち会えない場合は、京都会場は永井、大阪会場は大野がその代理をする。）
- * 引き続き内容の充実・活性化を図り、「交流」欄を充実させる。全国の会員にも「野草ML」などを活用して研究情報をお寄せいただきたい。
- * 「例会」記録は原則として「例会」報告者が執筆する。ただし4月例会（講演）、12月例会（書評）はその限りにあらず、あらかじめ記録者を決めておく。
- * 印刷費削減のため、画像は原則として版下データに埋め込む。
- * 海外研究機関・研究者への贈呈および海外留学生への配送サービスのあり方については、引き続き検討する。会報はPDF化されているので、海外研究機関に贈呈している会報の郵送を停止、メール配信に切り替えることを、時期、通知方法なども含めて事務局で検討する。海外発送担当は好並晶とする。
- * メールマガジンの運営は青野繁治が行い、PDFファイルの作成と配信は各月の編集担当が行う。
- * 投稿者は原稿送稿の際、原則としてE-mail添付（原稿ファイルと印刷イメージPDF）

とする。画像については、データを添付して配置位置を指示する。送られた原稿の返却は原則行なわないが、特別の事情があって返却を希望する場合は、その旨を申し出て、あて先を明記し切手を貼付した返信用封筒を同封すること。

【原稿送付先】

・E メール office[アットマーク]c-bungei.jp 「中国文芸研究会会報」原稿であることを明記する。

(〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 大阪大学箕面キャンパス青野研究室気付中国文芸研究会事務局宛)

* 過去には投稿がなくて担当者が苦勞することも多かったが、会員諸氏のご協力のおかげで連載や投稿の原稿をいただけるなど、充実した紙面を作ることができている。投稿者各位に深く感謝するとともに、引き続き活発な投稿をお願いしたい。

* 13年度に行った合宿とのタイアップなど、会報活性化に向けて、今後も会員諸氏からさまざまなアイデアをいただきたい。

* 会報担当者は、十数名の担当者で分担して仕事をする、という点が、ほかの事務局の係りとは異なっている。各地に散らばりそれぞれ多忙な各担当が、話し合ったり、共通認識をもったりすることは容易ではないが、1月例会日の午前中に行う「会報担当担当者懇談会」での話し合いほか、随時意見交換を行って、今年度も係りとしての責任を果たしてゆきたい。

(3) 「例会」開催 (担当：濱田)

* 「例会」開催数は、年間10回とする(2月、8月は例会を行わない)。月の最終日曜日午後1:30より開会することを原則とする。12月は忘年会を兼ねるため、日時は別途定める。今年度は会場予約の関係で、9月は最終日曜の28日ではなく21日に開催することになったので注意していただきたい。

* 講演(会員外・他領域・外国人研究者などを含む)・書評を年間各1回程度、『野草』関連報告を数回組み入れる。『野草』合評会(9・3月例会)の討論内容は、次号の『野草』誌上の合評記に反映する。論文執筆者は合評会に出席することを原則とする。

* 「例会」担当は濱田麻矢(office[アットマーク]c-bungei.jp)とし、例会の企画と報告希望者の調整を行なう。調整の必要から、希望者は早めに申し込むことが望ましい。コメントレーターについては報告者の申し出があれば検討する。

* 会場は、偶数月は同志社大学(京都会場)、奇数月は関西学院大学大阪梅田キャンパス(大阪会場)とする。ただし、状況に応じて会場は変更になる可能性があるため、各自研究会のウェブサイトをチェックしていただきたい。会場予約は阿部範之(同志社大学)・藤野真子(関西学院大学)、二次会会場予約は京都=鳥谷まゆみ、大阪=大野陽介が担当する。

* すでに決定している「例会」内容(例会カレンダー)は以下の通り。

4月27日(京都) 講演『チベット現代文学を読む』

大川謙作氏「チベット現代文学の誕生：1980年代を中心に」

星泉氏「チベットの現代文学を担う作家たち：ペマ・ツェテンを中心に」

5月25日（大阪） 城山拓也／絹川浩敏

6月29日（京都） 小笠原淳／劉靈均

7月27日（大阪） 唐顥芸／王勝群

8月 不開催

9月21日（大阪） 『野草』94号合評

10月26日（京都）

11月30日（大阪）

12月 （京都）書評（未定）

1月25日（大阪） 池田智恵／今泉秀人

2月 不開催

3月29日（大阪） 『野草』95号合評

（４）「夏期合宿」（担当：大東・城山）

*夏期合宿は、集中的な研究・交流の場として極めて重要である。大東和重・城山拓也を担当者とする。

*8月最終週（2泊3日）に開催し、「中国人日本留学生」特集を組む予定。詳細は「会報」および「ウェブサイト」掲載の案内を参照のこと。

（５）「書評の会」（担当：松浦）

*今年度も、4月・6月・10月（京都会場）の例会前（午前10時半頃開始）に開催する。書評内容の『会報』への掲載は継続してゆく予定である。具体的な書評対象については、『会報』またはウェブサイトで確認していただきたい。

（６）「映画の会」（担当：菅原）

*今年度も、東アジア映画研究関連書籍やイベント等の話題に目をむけつつ、映画の会の活動を、『野草』をはじめとする文芸研の諸活動に有機的に結びつけていけるよう、模索する。

*開催スケジュールは現在のところ流動的で定型化されていない。今後の開催方針については前年度に引き続き検討していく。

*「映画の会」は映画研究に興味をもつ会員有志の集まりであり、すべての会員に開かれている。情報交換にはメーリングリストが利用されている。映画の会メーリングリストへの参加を希望される方は、菅原会員までご一報願いたい（メールアドレス:yoshino24[アットマーク]nifty.com）。また過去の開催内容については、文芸研ウェブサイトを参照されたい。

（７）「特別事業」計画（担当：宇野木）

*過去の事業の清算作業をやり遂げた上で、新規事業に関して、会員からの企画を募集する。積極的な提案を期待したい。

*『図説・中国 20 世紀文学』（白帝社、1995 年初版・98 年再版）が絶版に至って久しい。原典を講読しつつ現代文学史を学ぶことができる教材は類を見ないこともあり、新版の刊行の声も寄せられている。新版の刊行の可能性に向けて、本腰を入れた検討を開始する。

（8）「野草ネットワーク」（担当：青野・菅原）

*コンピュータ・ネットワークを利用した『会報』『野草』編集作業の効率化は定着した。コンピュータ・ネットワークは事務の効率化に留まらず、遠隔地との交流や種々の情報提供・発信手段として、不可欠のものである。レンタルサーバーによる運営も定着したので、新たな展開が期待される。担当は青野繁治・菅原慶乃とする。

*『野草』掲載論文の検索を始め、本研究会に関する様々な情報を発信している「中国文芸研究会ウェブサイト」（<http://c-bungei.jp/bungei.shtml>）を、さらに充実させていく。

*設置された「交流データベース」（<http://c-bungei.jp/koryu/koryu-db.html>）と事務局 ML の連携がうまくゆくように工夫する。

*「野草 ML」（加入手続＝事務局までメールでアドレスを知らせること。手続が完了すると担当者からそのアドレスに通知がなされる）を活用した会員間の交流にも期待したい。論文・著書などを発表した際には、その情報の提供を是非ともお願いしたい。

*事務局アドレス宛のメールを事務局 ML に転送する作業は、前年度に引き続き、菅原・鳥谷の複数担当制で行う。

2 運営体制について

*研究会の運営は、事務局と『野草』編集委員会によって行う。

（1）事務局

*事務局は、総会決定に基づき研究会活動の日常的な実務を担当する。事務局構成メンバーと担当は以下の通り。

青野繁治（ML サーバ管理、メルマガ）・阿部沙織（会報、『野草』99 号編集担当）・阿部範之（京都会場予約）・井上薫（会報）・今泉秀人（普通口座）・上原かおり（会報）・宇野木洋（特別事業）・小笠原淳（会報、『野草』95 号編集担当）・大東和重（夏期合宿）・大野陽介（メール便大阪、会報、大阪会場二次会予約、『野草』96 号編集担当）・河本美紀（会報）・北岡正子（『野草』編集常任、代表）・絹川浩敏（『野草』編集常任）・工藤貴正（『野草』編集常任）・黄英哲（海外交流）・斎藤敏康（『野草』編集常任）・佐原陽子（会報）・島由子（会報）・菅原慶乃（映画の会、ウェブサイト管理）・谷行博（『野草』編集常任）・田村容子（会報、『野草』94 号編集担当）・津守陽（会報、『野草』97 号編集担当）・鳥谷まゆみ（京都二次会場予約、外部メールの ML 転送、『野草』98 号編集担当）・豊田周子（会報）・永井英美（会報編集リーダー、メール便京都）・中野徹（会報）・羽田朝子（会報）・濱田麻矢（例会）・平坂仁志（版下）・福家道信（『野草』編集常任）・藤野真子（会費、名簿管理、振替口座、会場予約）・松浦恆雄（書評の会、事務局長）・三須祐介（会報サブリーダー）・南真理（会報）・弓削俊洋（『野草』編集常任）・好並晶（海外、書店）・和田知久

(会報)。

*事務局の住所は以下の通り。

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

大阪大学箕面キャンパス 青野研究室気付

(2) 『野草』編集委員会

*『野草』編集委員会は、常任委員(『野草』編集担当経験者など)、編集担当、及び編集担当が事務局構成員を中心とする会員から選出した編集委員若干名により構成される。

*『野草』編集委員会は、『野草』の編集と刊行に責任を持ち、投稿論文の査読を手配する。また「原稿審査(査読)」のあり方、『野草』の編集・投稿規程の策定などを含む中・長期的な課題について検討する。

*『野草』編集委員会は、編集担当が必要に応じ事務局と相談し招集する。

(3) 会計監査

*財政の健全な執行を図るべく会計監査を置く。会計監査は岡田英樹とする。